

■平成25年度小城市子ども・子育て会議(第3回) 議事録

●日 時 平成26年3月18日(水) 14:00～16:00

●場 所 小城市役所 大会議室(西館2階)

●出席委員 15人出席

●事務局 事務局6人、コンサル2人 計8人

●会議記録(敬称略)

1 開会

【課長あいさつ】

【教育長あいさつ】

2 会長あいさつ

(会長)

こんにちは。今回で第3回ということで、各委員さんのそれぞれのお立場から積極的にご意見を賜りたいと思います。議事録の関係上、私が指名するときには、Aさん、Bさんというふうに指名をさせていただきます、どうぞよろしくお願いいたします。

議題は順番に1つずつ進めてまいります。

それでは、議題の1番目、小城市子ども・子育て支援に関するニーズ調査の報告について事務局からご報告をお願いいたします。

3 議題

(1) 小城市子ども・子育て支援に関するニーズ調査の報告について

【事務局説明 資料14】

(会長)

ありがとうございました。委員の皆さんから何かご質問、ご意見はございませんか。

(事務局)

事務局からです。配付した資料に各委員さんからの質問をまとめたものがあります。ニーズ調査に関係しますので、説明をしてよろしいでしょうか。

(会長)

お願いいたします。

(事務局)

A委員さんから、地域子育て支援サービスの認知状況と利用状況が低いというアンケートの結果から、親子でリラックスして参加できる内容の検討が急務かと思われます。また、市の方針、認定こども園も考えを新たにして宣伝する必要があると思いますが、どのような方向性でお考えでしょうかという質問です。地域子育てサービスの内容としましては、各施設で特色を持って事業の推進をお願いいたします。また、子育て支援サービスの情報提供については、地域子育て支援事業の中で、児童センターを拠点として情報を集め一元的な情報発信ができればと思っております。

次に、病児・病後児保育を「利用しようと思わなかった」という意見が高かったが、もし利用施設(保育園、幼稚園、認定こども園等)でそういう事業があればということ。こちらについては、通園する施設

で、病児・病後児の事業ができれば保護者としては安心して預けると思いますが、現在、どの施設も空き部屋がない状態であり、現状では難しいと思っております。

小城市としましては、小児科医院に併設した施設で事業を行っていただいております。佐賀市で2施設、江北町で1施設となっております。

子どもの遊び場が少ないとの結果が出ていると思っておりますが、安心して遊べる場の充実を、市はこれからどのようにするのかということですが、既存の施設、小城公園、アイル等や、保育園、幼稚園、児童センターの他、公民館や図書館などを広く活用していければと思っております。

続きまして、乳幼児検診が幼稚園、保育園としては気になる子どもの受診とその後の対応について、母親が保健師と話す中で方向性が見えてきて、よい事業だと思っておりますので、受診をしない子どもが出ないように対応を努力してほしいということです。こちら健康増進課に尋ねてみましたら、乳幼児検診の未受診者はいらっしゃいますが、その後のフォロー、保健師の訪問、そういうことで子どもの状態を現状100%把握していると聞いております。

44ページの小城市の努力すること等がたくさんあるということですが、保育園、幼稚園の経済的支援と児童手当等の増額等については、国の制度的なものですので、市独自で拡充するというのは、現在の財政状況の中では厳しいと思っております。

児童公園の整備等については、今ある既存の施設をどのように使っていくかを考えていければと思っております。

あと、出産して子どもを育てたい環境を整える費用を、事業計画の公定価格の中に生かせないだろうかということですが、こちら国も国の基準に従って考えていかなければいけないと思っております。

その他の意見や提案等で、保育・教育の質を上げる、障害児などの気になる子どもが園生活を送れるがように、保育・教育を配置できるように考えてほしい、会計基準について、定員についてなどがありました。この辺りは「国等の考え方に基づいて」ということになるかと思っております。

問13、資料番号14の23ページ、今、説明した23ページで一時預かりの利用が1.4%との結果が出ており、今後の幼稚園の預かり保育についてはどうなるのかというお尋ねですが、現在、ここでいう「一時預かり」とは、保育園等で月15日以内の保育事業のことです。芦刈幼稚園で行っている「預かり保育」は、幼稚園が開いているときには毎日6時まで預けることですので、事業としては別物と考えております。

子ども・子育て支援事業計画の作成スケジュールでは平成27年3月に策定完了となっておりますが、この事業のスタートについては、平成27年4月からとなっております。

事業計画構成(案)の4の基本理念の概要を参考に質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供とあるが、わかりやすく説明してくださいということですが、こちらについては、国で幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基本を養う重要なものであるということで、十分留意することとなっております。市では、「生きる力をはぐくむ」ということを基本理念におきまして、現在、小城市の幼児教育・保育ネットワーク会議の中で、作成した基本的な子どもの育ちの考え方により、平成26年度からは保育を行っていただくように考えております。

その次、G委員さんの分をご覧ください。こちらの資料14、5ページの「対象者及び保護者の特性」で、「特性という表現はいかがなものでしょうか。」ということですが、この表現の意図は、家庭状況の違いということで記載しております。報告書作成につきましては、委員さんのご意見を聞きながら実施していきたいと考えております。

提供区域の設定ということで、今までのように保育園、幼稚園を選ぶことができなくなるのかということですが、提供区域とはあくまで計画上のことですので、実際に通園する施設等については今までどおりご希望の園を選ぶことができます。

その他の意見で、「保育料の階層差が大き過ぎる、最低でも給食費ぐらいは徴収してもいいのではないのでしょうか」ということです。幼稚園については、給食費は保育料と別にいただいております。保育園については、給食費を含めた金額を国の基準表を基に算定しております。

B委員さんの質問です。57ページ、小学生児童保護者用の重要なところで、利用希望時間を聞いております。ニーズについて土曜日に利用したい開始時間が、「8時台」60.4%、「9時台」17%、「7時台」16.2%です。終了時間が、「6時台」32.1%、「5時台」28.3%、「7時台」17%となっています。

以上です。

(会長)

ありがとうございました。他に追加やご意見はございませんか。

それでは、C委員さん、お願いいたします。

(C委員)

預かり保育のニーズの中で「保育料について、高い。」とありますが、芦刈は合併前までは乳幼児の保育料を安くしていましたね。合併して市域が広くなり、今は統一されているようですね。

(事務局：課長)

この保育料については、基本的に国の基準を基に小城市統一の保育料の単価となっています。また、学校の給食代では別ですが、保育園は給食代やおやつ代を含めた金額になっています。

(C委員)

ありがとうございました。

(会長)

それでは次の議題に移りたいと思います。

2番目の議題。小城市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて、事務局から説明をお願いいたします。

(2) 小城市子ども・子育て支援事業計画策定スケジュールについて

【事務局説明 資料15】

(会長)

ありがとうございました。スケジュールについて報告がございました。委員さんの皆さんから質問はございませんか。

ないようですので、次にまいります。それでは小城市子ども・子育て支援事業計画イメージについてよろしく願いいたします。

(3) 小城市子ども・子育て支援事業計画イメージについて

【事務局説明 資料16】

(会長)

支援事業計画の全体的なイメージを示してあります。委員の皆さんからご質問はございませんか。

D委員さん、お願いいたします。

(D委員)

子育て支援事業、地域子育て支援拠点事業とは、どのような事業かを詳しく教えていただきたい。

(会長)

それでは事務局からお願いいたします。

(事務局)

地域子育て支援拠点事業とは、子育て広場などのことです。小城市では三日月町の児童センターや牛津町のアイル、小城町の桜楽館を開設しているなどのことです。これを地域子育て拠点事業と言っております。

(事務局)

補足いたします。先程の施設で保護者が子どもと一緒に乳児のオイルマッサージ、折り紙教室などいろいろな教室やサークルをやっている事業が地域子育て拠点事業となります。

(会長)

ほかに委員の皆さんからご質問はございますか。

D委員さん、お願いいたします。

(D委員)

今回、アンケートを取られたじゃないですか。これからは消費税とかも上がったり、働く人が増えたり、生活環境が変わる中、こういうニーズも変わってくると思うのですが、今後もこのようなアンケートをされるのでしょうか。

社会が変化していく中で女性、お母さんたちが外に出る機会がふえていくと思うので、これまでのように家庭にいるお母さんだけではないと思っています。

(会長)

今回のニーズ調査は、今現在の調査です。今回はこのニーズ調査をもとに議論されていきますけれども、将来的な不安を代弁されています。事務局いかがでしょうか。

(事務局)

この計画は5年の計画になっています。ですから、6年目以降は、この計画以降は、また、その時点で見直します。5年といいましたが、見直す必要があれば、途中での見直しも出てくるかもわかりませんが、基本的に5年計画です。5年後、また、今回のように国の主導で、ニーズ調査が行われるのではと考えております。

(会長)

よろしいですか。

ほかにございませんか。K委員さん。

(K委員)

詳しいニーズ調査をしていただいて、今後そのニーズに合わせた保育の充実、それから子育て支援の充実を進められていこうとされていると思っております。

ここで1つの保育園の感想を述べさせていただきます。私は小学校に勤めています。私のところに1年生、2年生が、抱っこされに来ます。そういった子どもたちは暴れたり、授業についていけない、学級を乱す子どもたちです。そういった子どもたちを抱っこしたり褒めたりすると、また近寄ってきます。素直に寄ってこないけど、それとなく近寄ってきます。そういった子どもたちを見ていると、働いて社会で自

立した母親の姿もちろん必要なのかもしれない、でもどこかで子どもが悲鳴を上げている、「抱っこしてよ」って、「話聞いてよ」って言っている。仕事、家事、母親の負担が大きくて、子どもたちが置き去りにされている、そういった現状を見ていると、果たして本当にその子どもたちにとって、「親が働いて子育てできる環境を充実したほうがいいのか？」と常に矛盾を感じています。もっとお母さん抱っこしてやって、お父さんもいいけど、やっぱりお母さんにはかなわないですね。正面から子どもの声を聞いてと、いうことを高々に言いたい。最近、子どもたちと話していても、目を反らしながらしか話せない子どもがとても多いですね。だから、家の方にお風呂に入ったときとかでよいので、「1対1で話をしてくださいね。」とか、「抱きしめてくださいね。」とお願いをしています。けれど、若いお母さんたちはそっこのけというようなどころがあります。私の中では、保育の充実も大切だけれども、子育て支援事業のような、「もっと子育てって楽しいよ。大事だよ。」ということと呼びかけていただきたいと思っています。

(会長)

K委員さんのご意見として承りたいと思います。今のように感想でも結構でございます。ご意見を出していただきたいと思います。

はい、L委員さん。

(L委員)

私も子育てをしながら仕事を持つ、子育て世代です。やはり子どもと過ごす時間は、長さではなく、質であるということを経験しました。私も母親としては未熟ですが学童保育の先生や保育園の先生に、子どもの様子を聞いて、「お母さん、こうしてあげてくださいね」とか少しアドバイスをしてもらおうと、「ああ、そうなんだ」と思います。先輩や、学校の先生、保育園の先生、学童の先生たちが導いてくださるから、助かっています。もちろん自分で子育てをしたいと思うのですがけれど経済的な理由を考えると父母で働かないと生活していけません。それは仕方がないとして、みんなで支えてくださる、みんなにかわいがってもらって子育てができると感じています。そういう温かい環境を市が中心になって目指していただければいいなと思います。私はそういうことを、この会議で伝えたいといけないう委員になりました。以前、学童の会議で、お母さんたちは自分の贅沢をするために働いてるんじゃないのと言われたことがあります。実際はそうではないです、自分の自己実現も必要です。生きていかないといけないうので生活費を稼ぐための仕事は必要です。でもそういう姿を、楽しく仕事をする姿を子どもたちに見せるという意味で位置づけています。

(会長)

ありがとうございました。B委員さん、お願いいたします。

(B委員)

さきほど、子どもたちが悲鳴を上げているとおっしゃいました。そして、保護者も悲鳴を上げてらっしゃると思います。社会情勢も変わってきて、お母さんが働きにどんどん社会に出る、社会に進出していかなくては行けないというところで、子育てもしなくちゃいけない。さっきのアンケート結果にもありましたけれども、子どもの具合が悪い時に父親と母親のどちらが仕事を休むかという、やはり母親がほとんどです。子育ては結局お母さんが担わざるを得ないところがあります。父親の保育の参加という項目もありましたけれども、それは量ではなく、主観的なものでしたね、質問項目が。「やっている」というふうな表現でしか書かれてない。それが70%と言われても、父親の子育てといわれますが、母親に担わされている部分がたくさんあると思います。子どもたちにかかわる大人、いろんな事業があつて、いろんな方が子どもたちに愛情を注いだり、かかわったり、迷惑かけたりというような状況があるということが、よい

地域ではないかと思います。子育ても地域全体でやっていく。住みたいと思えるような、子育てをしたいと思えるような小城市になることが一番大切なことではないかと思っています。

(会長)

ありがとうございました。D委員さん、お願いいたします。

(D委員)

子育てをして18年になります。下の子が保育所の年中さん、真ん中は中学2年生、上の子が高校2年生です。一生懸命育ててきました。私は子ども子育て会議の委員になった時、私の個人的な意見でよいのかと不安もありながら参加しました。私は地域で、家族ぐるみで、遊びや活動ができればいいなと思います。地域で子どもたちとお年寄りとおふれあえる機会が増えればいいなと思います。敬老会等の行事で子どもクラブが歌を歌ったり、そういう活動ができないかなと思っています。また保育参観のときにお母さんの子育てをサポートできるような講演や、お話を聞かせていただけたら、親としてすごく助かります。保育園や小城市でお母さんたちのフォローをしていただければいいなと思います。子育てしやすい環境をつくってあげたいと思いました。

(会長)

ありがとうございました。F委員さん、お願いいたします。

(F委員)

私の子どもは幼稚園にお世話になっていまして、昨日卒園式でした。私は、子どもを幼稚園に行かせるか保育園に行かせるか悩んだ時期がありました。理由は経済的なことです。働くことがこの子の将来の支えになるからと思っています。しかし、家族から幼稚園を進められ、幼稚園入りました。

そこで幼稚園の園長先生から言われたことが、3年間たくさん遊んでくださいと言われました。初めは戸惑いがありました。なぜかという、幼稚園は幼児教育を行うところなので小学校へ入るための準備として、字を書いたり、体操教室や、英会話、そういう様々な教育がされているというイメージがありました。なので、遊びということに戸惑いがありました。実際3年間、たくさん遊びました。遊ぶことによって身体的にも成長し、何より小さな社会で子ども同士、ケンカやおふれあいを通して、思いやりの心や、強い心が育ったというのが実感でした。

幼稚園では保育参観の後に教育講演会をされています。子育ての悩みに対してピンポイントのテーマで大変わかりやすい講演をしていただきました。それで戸惑っていたことが解消され、悩んでいるのは自分だけじゃないということもわかって、大変勉強できました。

迎えに行くとうちの子どもは幼稚園で遊んでいます。その遊んでいる姿を遠目に見ることで、子どもをちゃんと見つめることができたかなと思います。ほかの子どもたちとかかわることもできました。ほかのお母さんとの会話もできました。そしてお互い悩みを打ち明け、これからどうしようというような将来のことを話したりもしました。なので、初めは大丈夫かなと思っておりましたが、幼稚園で子どもはしっかり育つことができましたし、親としても大変充実した3年間を過ごすことができました。それは、やはり小城市が支援してくださったからです。小城市の公立の施設に通えたので働かずに幼稚園に通園でき、経済的にも何とかやってこられたというのが実感です。私は公立の幼稚園に行かせることができよかったです。今後もこのような状況をなくさないでほしいと強く願っております。

(会長)

ありがとうございました。G委員さん、お願いいたします。

(G委員)

ニーズ調査の就労形態で、お母さんはフルタイム就労よりもパート就労のほうが多いです。その結果を踏まえて、日常悩んでいることの中で、子どもを叱りすぎているような気がする事がフルタイム就労よりパート就労のほうが多い。時間に余裕のあるほうが叱ることが多いというのは心配です。お母さんの精神的な負担、どういう悩みがあるのかというようなども踏まえた上で、啓蒙活動を、小城市でしていただければと思います。

私は母子推進員をしていて検診の推進に回るので、そのときになかなか心を開いてくださらないお母さんも多いです。地元じゃない、よそから来たので話し相手もないと言われる方の相談相手になれたらいいなと思っています。うちの家にもいつでも遊びに来てもいいからねということで、お誘いして少しでも心のよりどころといいますか、もっとお母さん方の心を助けてあげたいな、救ってあげたいなと思っています。

(会長)

ありがとうございました。ほかにございませんか。

E委員さん、それからA委員さんお願いいたします。

(E委員)

アンケートは大体想像できるような集計結果ではなかったかなと思いました。私は子育てもほぼ終了していますが、PTA役員を中学校、高校とやっています。アンケートの中で一番衝撃を受けたのは、悩みの相談をするところで、保育士、幼稚園の先生、学校の先生に相談するという方がここまで低いのかとびっくりしました。この調査が、昔だったらもう少し高かいのではないかと思います。子どもと学校と親と地域との関係をもう一回深く掘り下げて考えたほうがいいのではないかなと思ったところです。

いろんな意見を言われる保護者さんは、子どもに対して前向きに語られます。けれども、実際PTA役員をやっていることは中学校、小学校では、無関心な保護者さんが多いということです。うちの地区でパレットクラブという活動をやっています。その中で教育講演会をPTA役員でやりました。いろんな先生をお招きして、時間帯を変えたり曜日を変えたりして何年も取り組んだのですが、ほとんど人が集まりません。保護者さんにも全員に案内状出して、届いているにもかかわらず、来られる方は決まって、20人くらいです。PTA役員の集まりや総会に来られる保護者さんは、子どもに対して真面目に、何でも前向きに取り組まれますので問題ないのですが、全然来られないところの子どもは問題がある子どもが多いのかなと感じています。でもその子の家にズカズカと私たちが土足で踏み上がることができない。そこがいつもジレンマになっています。だから保護者さんにも真面目に考えてもらうための教育をしないといけない、だから、みんなで考えていかないといけません。またアンケートの少数意見の部分は、やはり市民のニーズとして、ないがしろにはしてはいけないと思います。

(会長)

ありがとうございました。A委員さん、お願いいたします。

(A委員)

日頃からお母さん方に余裕がなくて、叱ってしまう、そういう様になさっている。皆さんみたいに理解のあるお母さん方ばかりだといいいのですが、施設側とすれば、0歳児、1歳児、2歳児、小さい子どもが朝7時から夕方7時まで施設にいるということに対して異常ではないかなと思います。子どもをお母さん方に返すために、今回の支援制度が、始まったのではないかなと思っていますが、余り変わらないようならば、この新制度の中身は何なのだろうと思われます。子どもたちをお母さんから12時間も離していつ接点があるのだろうかということもいつも考えます。歩けるようになったとか、固い物が食べられるように

なったとか、喜ぶ場面に保護者ではなく保育士が付き添っている。保育士が一番に見つけるということは不自然なことです。だから施設側は、お母さんが発見したように、最初の驚きを与えるように努力しています。そのように仕向けています。

子どもが甘えたいというのは普通の姿です、もっともっと甘える時間が必要だということを知っていただきたい。保育参観の日に行事が終わって子どもを保育園に残されるとき、子どもは愛を求めて泣き叫びます。保育参観のときぐらいは、私は非常に心が痛んでいます。だから、子どもと接する時間がとれるようなことを今回の新制度でしていただきたいと思います。

アンケートの中でほっとしたのは、病気のときに施設に預けたくないという結果が出たので、私はほっとしました。他の施設に預けても私は働きに行くという結果が出たら、もうゾットするところでした。それなら社会が変わらなければいけないと思いました。

子どもがよい環境の中で育ち、親子の関係が密接にとれるような社会をつくっていただきたい。子どもたちが犠牲になるようなことはならないと現場は感じています。そういう思いでこの新制度に望んでもらいたいと思っています。

(会長)

どうもありがとうございました。たくさんご意見を聞いて本当によかったと思います。

それでは次の議題に移りたいと思います。

4番目の小城市教育・保育提供区域の設定について、事務局お願いいたします。

(4) 小城市教育・保育提供区域の設定について

【事務局説明 資料17】

(会長)

ありがとうございました。次回の大きな柱の一つに、ここに出されている教育・保育提供区域の設定があります、委員さん何かご質問がございましたらお願いいたします。

次回の会議では教育・保育提供区域を決めるということですね。

(事務局)

はい。今回は、まずこのようなイメージだということを知っていただき次回の会議に臨んでいただきたいと思っております。

(会長)

4つの議題についての説明と、それに対する委員さんのご意見を伺うことができました。1から4を振り返って全体的に委員さんから何かございましたらお願いしたいと思います。

H委員さん、何かございませんか。

(H委員)

私は保育園に30年勤めておりまして、30年間子どもと保護者さんを見てきました。家電製品の普及や充実で生活面はいろんなサポートが充実しています。でもお母さん方たちを見ているとぜんぜん精神的に余裕がないです。理由が何かわからないのですが、お母さん方を見ていると、乳児のお母さんというのは余裕がないと思います。子どもたちも集中力がなく、心配しています。先ほどE委員さんも言われたように、私も講演会を開催しておりますが、このお母さんに来てほしいと思って開催するのですが、来てほしいお母さんはどんなに呼びかけても来ていただけないのが現実です。子育てに興味があり関心のあるお母さんは、毎回来ていただけています。どうしたら子育てに前向きでない、自信のないお母さんを引っ張

り出せるか、保育園の課題です。先ほどのアンケートを見て、相談する相手が保育園の先生は低いというのが本当に残念です。0歳から預かって日々子どものことをお母さんに伝えていますが、お母さんを喜ばせたい。どうしたらお母さん方にもっと精神的に余裕ができて子育てを楽しんでいただけるかなと思って、相談をしていただけるように、もっとお母さん方の気持ちの中に入り込んでみたいというのが私の想いです。

また、K委員さんがおっしゃったように、子どもたちを見ていると本当に家族の方と一緒にいたいという気持ちが毎日伝わってきます。病気で保護者の方が迎えに来られたときは、「子どもたちはいつも一緒にいたいと思っています」という当たり前のことを、私は毎回伝えていきます。またかと思われるかもしれませんが、子どもはお迎えの時間が近づくと、楽しそうに遊んでいてもお迎えの方向を見えています。そういうことを保護者の方にわかっていただいて、少しでも早く迎えに行つてあげようという気持ちになっていただいて、子どもたちがにこにこして帰れるような工夫をやっていきたいと思ひます、もっともっと頑張つていかなければと思ひました。

(会長)

ありがとうございます。J委員さん、お願いいたします。

(J委員)

国の施策として全国でニーズ調査が行われていると思ひます。そして、この小城市に何が必要かというのを考えていただいていると思ひます。保育、学校教育、子どもたちのことを私ももっと勉強していかないとはいけません。子どもを育てていくということは地域の方、おじいちゃんたち、おばあちゃんたち、街全体でやらないといけません。私の住んでいる地域では、子どもクラブでいろんなことをされています。毎年されているから、「子どもたちのために何かしよう」という意識の方もいらつしゃいます。そういう何とかしようという人たちが集まって、こういうのをやってみましようとなつて、それが成功すればまた広がりが出てということになると思ひます。何か一つをやってみることが必要だと思ひます。それが小城市独自のものだったら、すごく素敵な発信になると思ひます。小城市は、ほかのところとは違う特色を出しているよねっていうものをつくるために、皆さんと一緒に考えていけたらと思ひております。

(会長)

ありがとうございます。I委員さん、何かございませんか。

(I委員)

私は、地域子育て支援拠点事業でサポートセンター事業の担当課ということになるのですが、既存の子育てのサービスだけでは対応できない部分に対応していかなくてはならないと思ひのですが、ニーズが個別化しているし、多様化している中で、できるだけ保護者さん、子育て世代の皆さんに寄り添いながら支援をしているところです。ファミリーサポートセンター事業も、県内では小城市のファミリーサポートセンターを利用している方が多いです。アンケートの結果を見るとまだまだ知らない方がたくさんいらつしゃいますので、まだまだ頑張つていかないとはいけない部分もあります。また保育園や幼稚園も行けないという方たちの支援も今後大切になってくると思ひております。

(会長)

ありがとうございます。M委員さん何かございませんか。

(M委員)

私の3番目の子は幼稚園の年少になります。幼稚園は児童がどんどん少なくなつていきます。現在20人足らずです。ほかのお母さんと話して、14時にお迎えに行くことがきつくて、夏休みも冬休みもあ

りますし。生活が少しでも楽になるように、少しでも働きたいと思いますが、でもやっぱりわがままかもしれないですけど子どもと一緒にいたいという気持ちもあります。15ページの幼稚園の預かり保育の利用希望がすごく多かったので、預かり保育料を検討していただければ児童も増えると思いますし、お母さんたちの経済的な負担も軽くなるのではないかなと思います。よろしく願いいたします。

(会長)

ありがとうございました。

それでは、その他で、次回のことについて事務局お願いいたします。

(事務局：課長)

回りの開催は5月を予定しております。初旬は連休がありますので、中旬を考えております。また、開催日の前に通知いたします。事務局から以上です。

(会長)

それでは、閉会をお願いいたします。

6. 閉会

【事務局：教育部長あいさつ】

(会長)

皆さま、お疲れ様でした。

以上